

Cure & Care

vol.2
2012. 5



各務原リハビリテーション病院が
平成23年12月にオープンしました

地域に根ざした医療と介護を誠の心で実践します

目次 - CONTENTS -

理事長あいさつ	P2
施設長あいさつ	P3
医局長あいさつ	P4
誠道会の歴史	P5
新病院のご案内	P6~7
部署紹介	P8
特集：回復期リハビリテーション病棟	P9
新任総師長・医師紹介	P10
ノロウィルスについて	P11
法人施設のご紹介	P12

理事長あいさつ



医療法人社団 誠道会

いその みちお
理事長 磯野 倫夫

マスコミの報道でご存知の事と思いますが、昨年度末に法人内の老人保健施設「菜の花」におきましてノロウィルスの集団感染がありました。法人において保健所の指導を受けつつ調査いたしました。その感染経路の同定までには至りませんでした。また、施設内の感染の拡大につきましては、接触感染や飛沫感染によるものと考えられ、手洗いや換気など以前よりおこなっている基本的な感染対策に加えまして、嘔吐があった場合の初期対応を、原則としてノロウイルス感染症を想定したものにいたしました。嘔吐の処理をした職員や同室の利用者様に引き続いて発症が見られたことより、飛沫感染が強く疑われましたが、それ以外の患者様の発症もあり、職員などを介した接触感染も否定できませんでした。法人職員一同、今回の出来事を真摯に受け止め、各務原リハビリテーション病院と連携のもと、皆様に安心して利用していただける施設を作る決意です。

昨年末にオープン致しました各務原リハビリテーション病院は、近隣の急性期病院からご紹介をいただき、入院の対応に追われる日々が続いております。当法人に限らず医療施設は慢性的な看護職不足の状態であり、病院の病床すべてをオープンできない状態が続いております。

幸いにも1月10日より、総合病院で看護指導官として勤務し、希望ヶ丘学園の看護部長の経験もある、高橋範子氏を総師長として迎えることが出来ました。高橋総師長を中心に病院の看護体制を一新し、リハビリテーション病院として地域に貢献すべくスタッフ一同がんばっております。また、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のスタッフも30名近くとなり、リハ学校の教員の方々の指導のもと、日々、研鑽に励んでおります。

これからは、日本の戦後を引っ張ってきた団塊の世代の方々が回復期リハビリの対象者になります。この世代の方々は、学生運動や高度成長期の競争社会を経験された意志の明確な方が多く、多様なニーズが考えられます。当病院のリハビリテーションの基本は、患者様やその家族の方々の希望をかなえるリハビリテーションです。前の姿に戻してほしい、が多くの患者様のご希望でしょうが医学的に困難な場合もあります。しかし、前の生活に戻してほしい、であれば広い意味でのリハビリテーションでかなり可能であろうと考えます。これが当病院の目指すリハビリテーションです。

介護老人保健施設 菜の花 施設医あいさつ



介護老人保健施設 菜の花

いぐち つねお
施設医 井口 恒男

「終の住処にむかう老健施設」

高齢化の波は激しくなってきました。全国的には毎年老年人口は 0.5～0.7% ずつ増加しております。老人保健施設菜の花の利用者も年々高齢化しております。

老人保健施設の利用者は要介護と判定された方々であり、多くは歩行困難などハンディのため自立もままならない方々です。高齢になるほど、また、原因疾病が重症であるほど当然ながら自立度は低下して行きます。また、老年症候群といわれるように高齢になるほど複数の疾病や異常がみられ、年齢の1/10程度、80歳であれば8か所の病気や異常がみられるといわれます。

昨年5月に当施設に入所されていた方々の平均年齢を性別にみましたが、男性80.8歳、女性が86.3歳で何れも最近の平均寿命を上回っています。そのためか当施設で看取る方が年々増加しており、平成23年には20の方が看取られました。

逝去された方の中には、外見的には予測できない体内での血管破裂によると思われる方が2、3名みられ、高齢になる程、皮膚も血管壁も破れやすくなっているのです。各種臓器も老化、脆弱化が進んでおり、身体急変が起こりやすいのです。

平成24年2月、老人保健施設菜の花において感染性胃腸炎が発生しました。感染性胃腸炎の原因には細菌性、ウイルス性などいくつか挙げられますが、患者発生の数日後、ノロウイルスによる感染と推定されました。このような場合の第一の対策は、感染の拡大防止と感染者の治療です。感染防止には交通遮断、消毒の徹底、手洗いの徹底が有効であり、数週間にわたり利用者の方々への面会を自粛していただくなど、大変ご迷惑をおかけいたしました。感染者の治療の基本は脱水対策で、当施設においても点滴の対応などしてきましたが、嘔吐・下痢を伴って不幸な転機をとられた方もみられ、深く哀悼の意を申し上げます。

今後は、このような感染の予防策をさらに徹底し、地域の皆様に安心して利用いただけるよう、職員一同とともに頑張っていきたいと思っております。

医局長あいさつ



各務原リハビリテーション病院

医局長 **わざ まさひろ**
和座 雅浩

平成 23 年 12 月より、各務原リハビリテーション病院の医局長に就任いたしました和座雅浩と申します。雄大な木曾川の流れを眺めると、祖母に連れられて河川敷で走り回った懐かしい思い出が甦ります。ご縁あって私の生まれ故郷であり、高校までの 18 年間で過ごした岐阜の地で、医療に従事できる喜びを日々感じております。

当院はお陰様で平成 23 年 12 月、地域の皆様、医師会の方々、行政の方々のご支援を得まして、前身の新鶴沼ヶアクリニックから、各務原リハビリテーション病院へと発展させて頂く事ができました。医療行政として入院病床の削減が勧められている今日にもかかわらず、病院開設のため多大なご支援を賜りましたこと、そして旧クリニック時代では出来なかった外来からの入院、そして在宅に復帰されるまでの一連の治療において、地域の皆様のニーズに応えられる幅を広げるチャンスを頂けましたこと、心より感謝申し上げます。

当病院名に付けられたリハビリテーション(rehabilitation)の語源は、ラテン語の re「再び」、habilis「人間らしい」という語に由来し、すなわち「例え患者様が病気を患われても、再びその方らしい生活を取り戻して頂く」事が私どもの理念であり、医療人としての最大の喜びでございます。いま日本は、世界に例を見ない速度で高齢化が進行し、脳卒中、悪性新生物、糖尿病を中心とした生活習慣病および認知症などが今後益々増加することが予想されております。地域の皆様の健康・生活を守るためには、まずは①病気に患われないように努める事(一次予防)、②病気を患われても早期に治してうまく付き合う、またこれ以上悪化させない事(二次予防)、③リハビリテーションの実施により機能維持や回復を図る事(三次予防)の実践が急務と考えております。病院開設により入院病床を拡充できましたことで、特に②と③については、内科合併症に対応可能なリハビリテーション病院として地域医療に貢献させて頂く事が出来ると自負しております。

私の専門分野である神経疾患においては、依然有効な治療法の確立がなされていない難病も多々ありますが、医学・医療の進歩により、種々の治療法・予防法を組み合わせることが疾患の予後改善につながる可能性も示されるようになり、私が医師になったばかりの 15 年前と比較すれば著しい進歩と言えます。私の使命は当病院にて診療させて頂く患者様の脳を守る事であり、そして夢は、全国と比較しても各務原東地区の方は、脳卒中や認知症の発症率や重症化率が低く、いつまでも生き生きとした生活を送られているとの評価を頂く事でございます。

これまで以上に提携医療機関様との連携を強化し、地域の皆様の健やかな生活を守るため、スタッフ一同全力を尽くす所存でおります。今後とも引き続きのご支援をお願い申し上げます。

◆誠道会の歴史

医療法人誠道会の始まりは大正9年

現理事長の祖父である磯野誠道が出身地である岐阜県各務原市羽場町にて医院を開業したのが始まりです。

昭和初期 羽場町から山崎町7丁目に「日本ライン養生院」として移転・新築するも、太平洋戦争にて中断を余儀なくされました。

昭和25年頃 誠道の死去に伴い、2代目院長で現理事長の父である磯野成光が「いその医院」として再開しました。

昭和60年 成光の死去に伴い、磯野倫夫が院長となり、翌年臨床研鑽のため、いその医院を一時休院しました。

平成6年 「いその医院」を山崎町3丁目に移転・再開し、法人名を「医療法人社団いその医院」としました。

その後、人が人として地域で生活できる社会を支えることを目的として事業の拡大を行ってきました。

平成11年 訪問看護ステーションあすか 開設

平成15年 グループホーム菜の花 開設

平成16年 デイサービスセンター菜の花、介護相談センター菜の花を開設し、医療法人の名称を「いその医院」から「誠道会」へと変更しました。

平成19年 岐阜県初の有床診療所と介護老人保健施設、デイケアセンターが一体となった医療・福祉複合型施設として新鵜沼ゲアクリニックを開設しました。

平成20年 小規模多機能型居宅介護施設菜の花 開設

平成22年 外来・訪問リハビリテーション部門を開設し、リハビリテーションの充実を図ってまいりました。

平成23年12月各務原リハビリテーション病院 開設



初代院長 磯野誠道



二代目院長 磯野成光



現院長 磯野倫夫



各部署 の紹介

リハビリテーション部門



新病院には回復期のリハビリテーションを目的とする病棟が新設され、より充実したリハビリテーションを提供することが出来るようになりました。

免荷歩行装置などの最新の機器や各種検査キットを取り揃え、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が患者様一人一人に合ったリハビリテーションを行っています。

またリハビリスタッフのみならず、さまざまな職種のスタッフとチームになり、よりよいリハビリ・病院生活を送っていただけるよう取り組んでいます。その他に外来・訪問・通所リハビリテーションを実施しており、在宅復帰後も継続してリハビリが受けられるようサポートしています。

地域医療介護連携室



医療・福祉について
気になることはお気軽に
ご相談ください。



新病院入口を入ってすぐ右にあるのが、地域医療介護連携室です。

主に各種手続きや入院等のご相談を行っています。また、他院・他施設との連携を強化し、在宅・社会復帰のお手伝いをしています。

外来・検査部門



内科・消化器内科・神経内科・糖尿病代謝内科・循環器科・リハビリテーション科の外来診療を行っています。また各種検査機器を取り揃え、健康診断や人間ドックを受けることもできます。

リハビリ透析センター



透析リハビリセンターは病床数 30 床で入院・外来に対応しています。

また透析前・後のリハビリテーションのみでなく、透析中のリハビリテーションにも取り組んでいく予定です。

看護部門



看護部は、誠道会の理念を基本とし、専門職として質の高い看護・介護を目指しています。

患者様一人一人の「生活」を考えたケアを各部門と連携を密にし、患者様だけではなく、誠道会に関わる全ての人に満足して頂けるよう取り組んでいます。

特集

回復期リハビリテーション病棟



● 回復期リハビリテーション病棟とは？

脳血管疾患や大腿骨骨折など発症から急性期（救急治療など）を経た後の『回復期』に行っていくリハビリテーションを専門で行う病棟です。

回復期リハビリテーション病棟では、在宅復帰・社会復帰を目指し1人最大1日3時間のリハビリテーションを重点的に行います。日常生活動作能力の向上による「寝たきり予防」と「在宅復帰」を第一の目的として、患者様やご家族様を中心に医師・看護師・ケアスタッフ・医療ソーシャルワーカー（MSW）・理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）・栄養士など多職種がチームとして生活リハビリの実施を支援しています。

● 入院対象者は？入院期間は？

	疾患	発症から入院	入院期間（上限）
脳血管疾患 脊髄損傷等	脳卒中、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷の発症もしくは手術後、義肢装着訓練	2ヵ月以内	150日
	高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷・頭部外傷を含む多発部位外傷		180日
整形疾患等	多肢の骨折、大腿骨・骨盤・脊椎・股関節・膝関節の骨折もしくは手術後	2ヵ月以内	90日
	股関節または膝関節の置換術後の状態		
	大腿骨・骨盤・脊椎・股関節・膝関節の神経筋・靭帯損傷後	1ヵ月以内	60日
廃用症候群	外科手術または肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有している状態	2ヵ月以内	90日

● 当院のリハビリテーション病棟の特徴

当院では、回復期リハビリテーション病棟の取得へ向け患者様に携わる全ての職種が、リハビリテーションの考えのもと仕事を行っています。リハビリテーション室は、患者様・スタッフがより多く集まる場所に、フルオープン状態で設置されており、誰もがリハビリに参加できるように設置されています。また機器に関しても、効果の高いと言われている『免荷歩行装置』や『レッドコード』などを使用し、質の高いリハビリテーションを提供しています。

■ リハビリテーション科専門医（非常勤）



林 博教 医師

- ・愛知医科大学病院
リハビリテーション科助教
- ・日本リハビリテーション医学会員
- ・日本脳卒中学会員
- ・日本義肢装具学会員
- ・日本高次脳機能障害学会員

＜レッドコードを使用したスリングセラピー＞



レッドコードと呼ばれる天井から吊るされた赤いロープを使用し、さまざまな運動を行います。

骨折後や脳卒中後のリハビリなど幅広く疾患に活用でき、当院では日常生活の動作練習にも生かせるよう台所や洗面台にも設置されています。

＜免荷歩行装置を使用した歩行練習＞



免荷歩行装置は、脳卒中後、骨折後などさまざまな分野において使用される機器です。術後・受傷後早期で自己の体重を支えきれない方は今まで歩行練習を行うことができませんでした。免荷歩行装置を使用することにより早期から歩行練習を実施することが可能になりました。



当法人に新たに総看護師長と腎臓内科医が入職しました。

新任総師長の紹介



たかはしのりこ
総師長 高橋 範子

このたび前任師長の後を受け継ぎまして、この1月10日より総師長に就任いたしました高橋でございます。就任にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

皆様方がすでにご承知の通り、当院は昨年12月に誕生したばかりでございます。超高齢社会に突入し、転倒による骨折、脳卒中による半身麻痺など、要介護状態や要介護のリスクの高い状態の方々に、社会生活が継続できるように運動器リハビリテーションの介入を中心に、対象者の意欲を引き出すことができる看護・介護が提供できるよう取り組んでまいりたいと思っております。障害を抱えてもその人らしく社会で生活を送ることができることが看護・介護職の取り組むべき課題であると、私は考えております。私たち職員が医師を中心にチームを組み、力を合わせて一人ひとりの患者様のお役にたてるよう、日々精進し取り組む所存でございますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

新任腎臓内科医の紹介



まつばら たつや
腎臓内科 松原 龍也



【専門】 内科・腎臓内科

内科認定医
腎臓専門医、指導医
透析専門医、指導医
老年医学専門医

【紹介】

福井大学（旧福井医科大学）医学部卒
独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター
医療法人創和会 重井医学研究所付属病院 内科、腎臓内科

2012年4月から各務原リハビリテーション病院に赴任した松原龍也です。腎疾患を専門分野としています。

最近、慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease:CKD)という新しい病気の概念が注目されています。CKDとは、腎障害を示す所見や腎機能低下が慢性的に続く状態で、放置したままにしておくと、末期腎不全に陥り、人工透析や腎移植を受けなければ生命の維持は難しくなります。末期腎不全は全世界的に増え続けており、いわゆる“隠れ腎臓病”のうち、早期発見、早期治療することが大切です。

日本には約1,330万人のCKD患者がいるといわれています。これは、成人の約8人に1人にあたる数です。また、人工透析を受けている患者さんも、その数は毎年約1万人ずつ増え続けています。2010年末には297,126人に達し、国民約400人に1人が人工透析を受けていることになりました。

CKDでは、心臓病や脳卒中などの心血管疾患にもなりやすいことが明らかになっており、出来るだけ早期にCKDを治療し、心血管疾患を予防することが大切です。

しかし、CKD(慢性腎臓病)の初期には、ほとんど自覚症状がありません。つまり、病院にかかる機会を失い、貧血、疲労感、むくみなどの症状が現れたときには、病期がかなり進行している可能性もあります。慢性腎臓病や血液浄化療法などを中心に診療に携わっていく予定ですので皆様よろしくお願ひ致します。

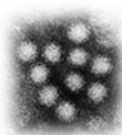


ノロウイルスについて



昨年度、当法人内の介護保険事業所においてノロウイルスの集団感染が発生しました。徹底した感染防止策と皆様のご協力もあって、事態は収拾へ向かいましたが、今後も法人内での感染対策に力を注いでいきたいと考えています。

今回は、感染拡大防止の為に当院で行った対応とノロウイルスについての基礎知識をご紹介します。



ノロウイルス [Norovirus] とは

以前は、小型球形ウイルス(SRSV)と呼ばれていたが、2003年以降、ノロウイルスと呼ばれるようになりました。1968年のアメリカ合衆国のノーウォークでの胃腸炎の流行をきっかけに、1972年に発見されました。

日本の感染症発生動向調査によれば、冬季の前半はノロウイルスによる胃腸炎が多く、冬季の後半はロタウイルスによる胃腸炎が多いとされています。ノロウイルスによる集団感染は世界各地の学校や養護施設などで散発的に発生しています。

ノロウイルスの特徴

- 1) 潜伏期間は24時間～48時間程度
- 2) 発症すると下痢（激しい水様便）、吐き気、嘔吐、発熱などの症状を呈する
- 3) 乳幼児は嘔吐、成人は下痢の症状が多い
- 4) 感染の原因はカキなどの貝類による食中毒のほか、二次感染などがある
- 5) 嘔吐物・便から二次感染を起こす（特に飛沫が空中散布されることで集団感染に至るケースが多く注意を要す）
- 6) 致命的な病原ではなく、通常は3日以内で回復するが、体力の弱い幼児や老人は死亡する場合もあるので注意（特に発症初日は症状が酷い）
- 7) 60℃10分程度の加熱では病原性を失わず、逆性石鹼や消毒用アルコール、飲料水に含まれる程度の低レベルな塩素に対して抵抗性がある
- 8) 次亜塩素酸ナトリウム（台所用塩素系漂白剤の主成分）による消毒、または85℃1分以上の加熱を推奨
- 9) 普通の風邪と思うような軽症ですむ人もおり、栄養をつけ、安静にしていると、回復する（後遺症もない）
- 10) ノロウイルスに感染しても2～3割の人は発症しない

当法人におけるノロウイルス対策

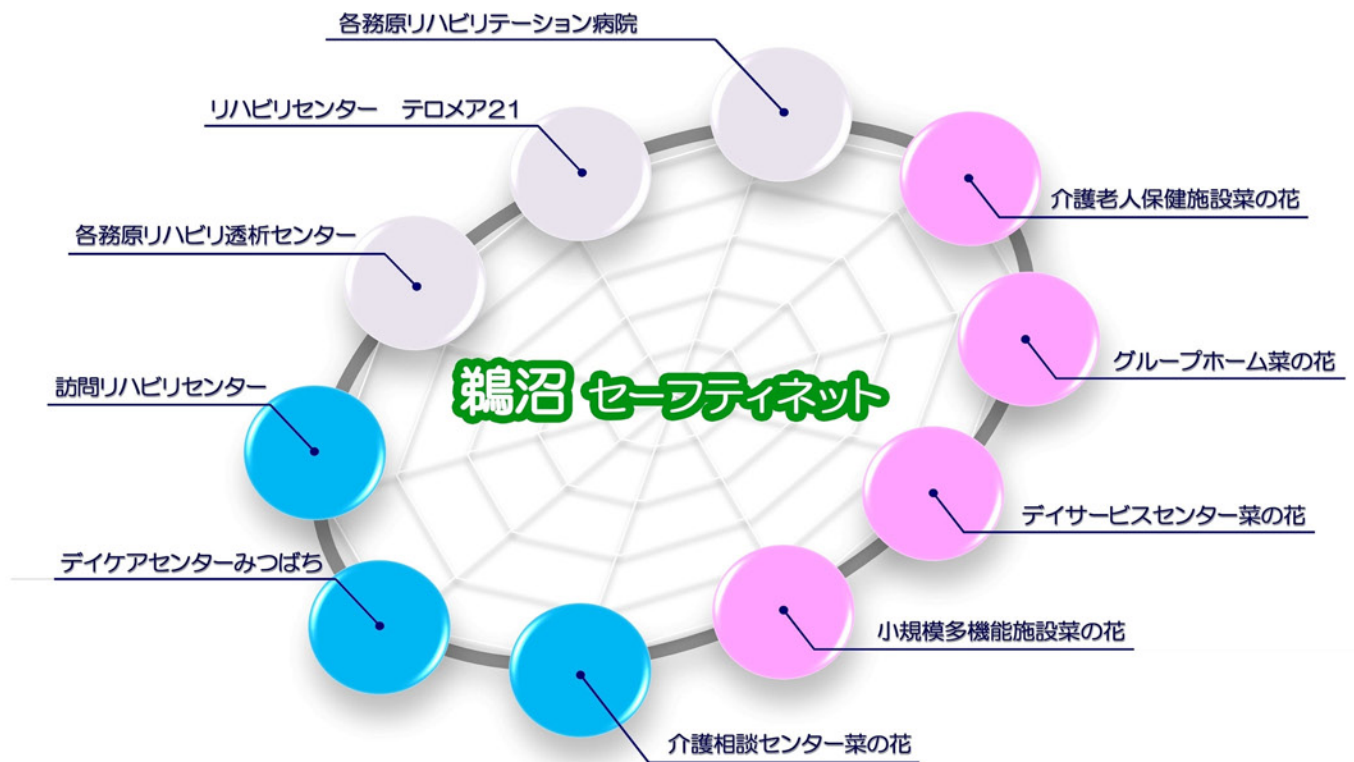
- 1) 感染対策委員会の設置
- 2) 情報収集・共有の徹底
- 3) 職員指導・教育の徹底
- 4) 手洗い・うがいの徹底
- 5) 職員の健康管理・チェックの徹底
- 6) 清掃の徹底
- 7) 消毒の徹底
- 8) 換気の徹底
- 9) 移動範囲の制限
- 10) 感染者の迅速な隔離
- 11) 食器の変更
- 12) 面会の制限
- 13) 入所者・職員のウイルスチェック
- 14) おしぼり・共用タオル（職員用）使用の廃止
- 15) ご家族・サービス事業所への情報伝達

その後の感染が収束するにつれて・・・

移動可能エリアの拡大
面会の再開：予約制、時間制限、健康チェック
食器の変更：通常の物へ

現在もなお、手洗い・うがいの徹底・健康チェック・消毒・清掃・換気の徹底は継続して行っています。

法人施設のご紹介



各務原リハビリテーション病院 ・ リハビリ透析センター

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-384-8485 FAX 058-370-1901

(地域医療介護連携室)

TEL 058-384-8181 FAX 058-384-8403

介護老人保健施設 菜の花

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-384-8399 FAX 058-384-2102

グループホーム 菜の花

各務原市鶺沼東町 6-8-1
TEL 058-379-6205 FAX 058-379-6206

訪問リハビリ

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-384-8399 FAX 058-384-2102

デイケアセンター みつばち

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-384-8399 FAX 058-384-2102

デイサービスセンター 菜の花

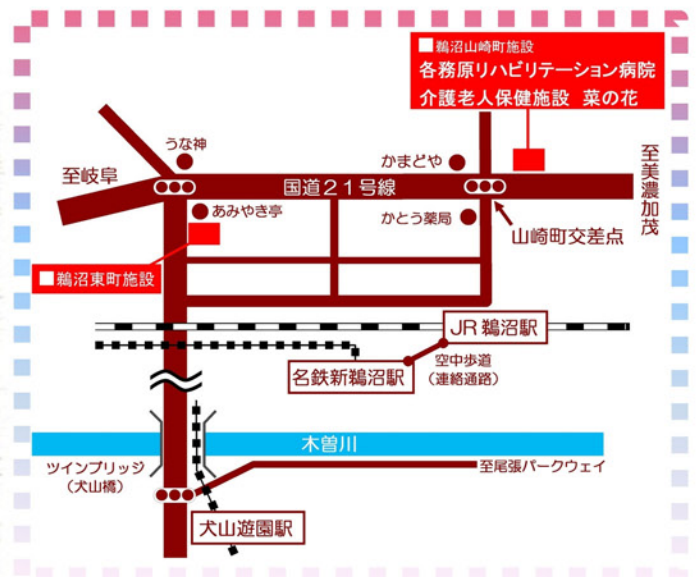
各務原市鶺沼東町 6-10-1
TEL 058-370-7494 FAX 058-370-6936

小規模多機能型居宅介護施設 菜の花

各務原市鶺沼東町 6-10-1
TEL 058-370-7775 FAX 058-370-6936

介護相談センター 菜の花

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-370-6935 FAX 058-384-2102



— 広報委員 —

磯野理事長 (監修)

地域連携課: 谷口 純子 (委員長)

放射線係: 小林 由幸

リハビリテーション係: 豊田 啓 早矢仕 充寿

漆原 宏美 坂田 崇好